

尻屋沖東方海域の水温観測について

海上自衛隊大湊地方総監部 齊藤靖夫

1 はじめに

海上自衛隊では、尻屋沖東方海域の北緯41度25分、東経141度40分から東経146度00分までの東西のラインの水温観測を民間観測船等により毎年実施しています。

今年は、諸般の事情により6月以降の観測が実施できていないため、2月から5月までの観測結果により水温断面図を作成し、津軽暖流及び親潮の動向について発表します。

2 観測結果

(1) 2月11日～2月12日

ア 暖 域

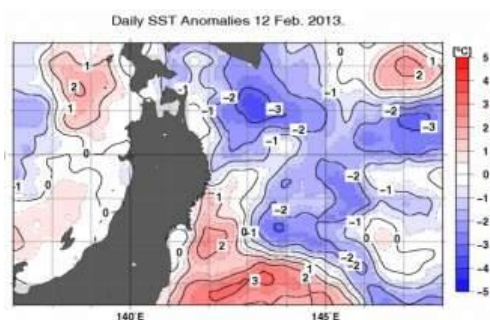
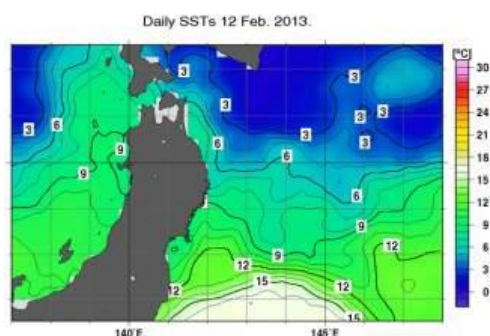
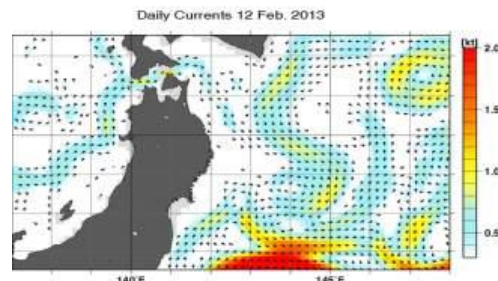
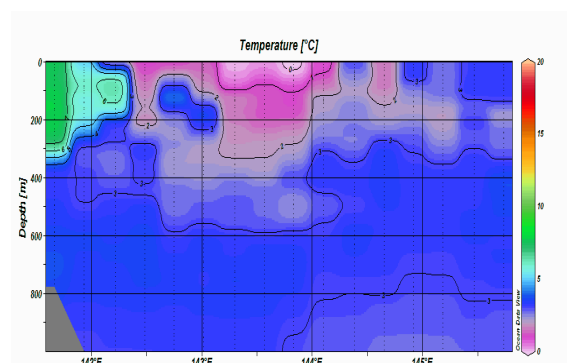
津軽暖流と思われる暖水域は、北緯142度20分付近まで流出し、水深200m～300m付近まで沈降している。

イ 寒 域

親潮第1分枝と思われる寒域が東経142度20分～145度付近まで流出し、東経143度付近～144度付近では、水深400m～500m付近まで沈降している。

ウ 衛星等解析

津軽暖流の張り出しは弱く、襟裳岬沖の東経143度30分付近の潮流が強く、水温についても3度以下の水温域が南下している。



(2) 4月28日～4月29日

ア 暖域

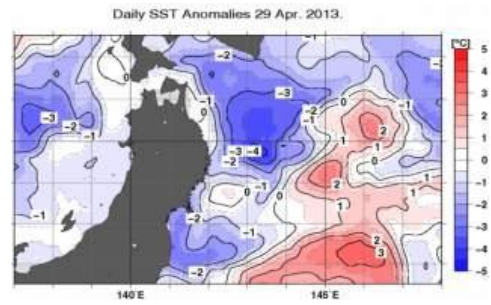
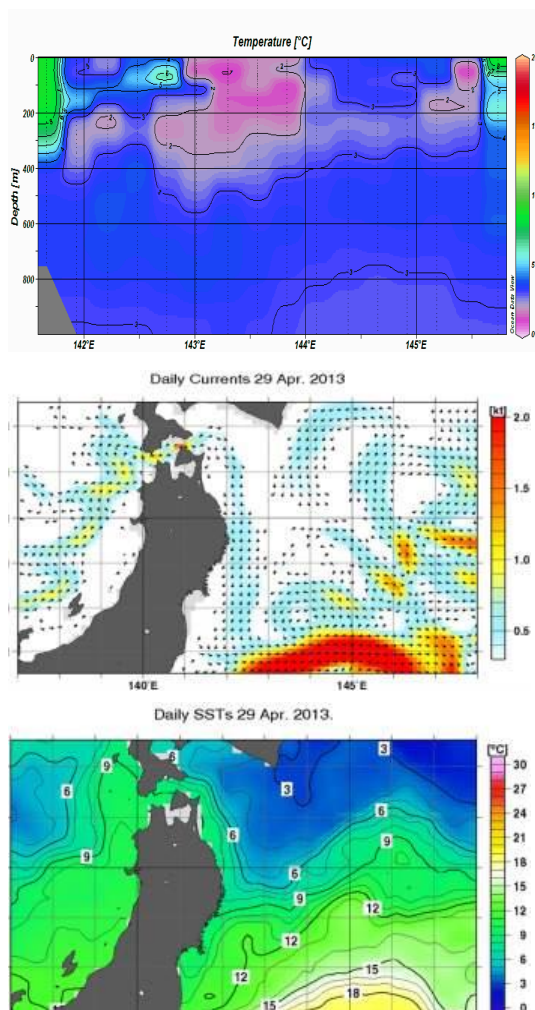
津軽暖流と思われる暖水域は、東経142度45分付近、水深100m付近に一部にあるほか、141度45分以西にあり、水深350m付近まで沈降している。

イ 寒域

東経143度付近から144度付、水深500m付近まで沈降し、東経142度付近の水深200m付近～400m付近にも一部存在している。

ウ 衛星等解析

2月に比べ、津軽暖流の張り出しに大きな差は無いものの、襟裳沖の潮流はやや弱まり、水温も2度程度と高くなっている。



(3) 5月3日～5月4日

ア 暖域

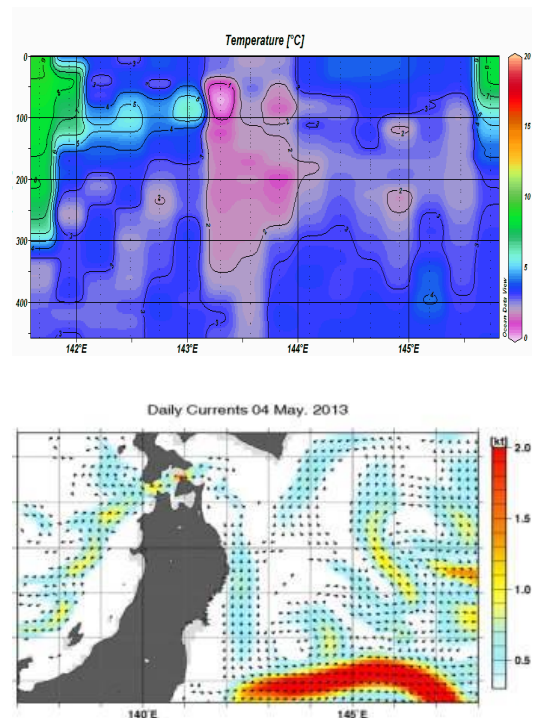
津軽暖流と思われる暖域は、東経142度以西の、水深300m付近まで沈降している。

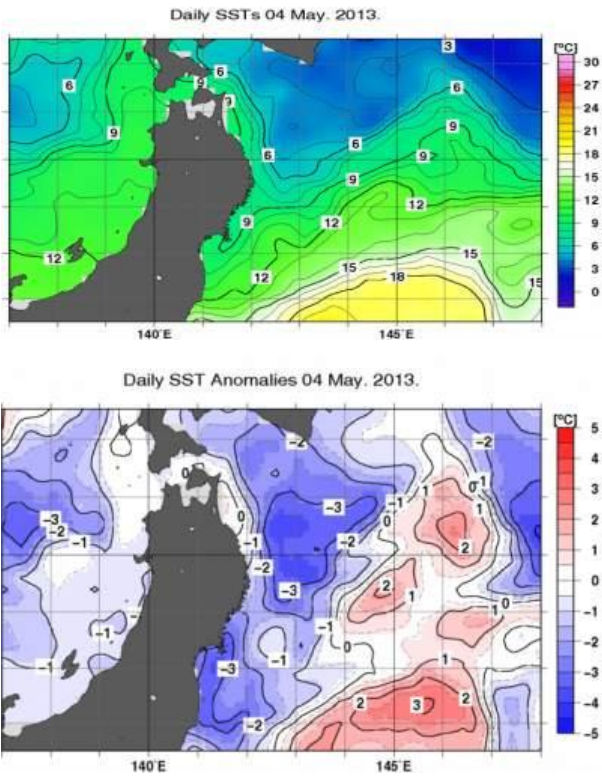
イ 寒域

東経143度20分～144度付近に見られ、水深450m付近まで沈降している。また、東経142度～143度の水深200m～400m付近にも一部寒域が見られる

ウ 衛星等解析

潮流は、4月とほぼ同じであり、表面水温はやや高い。





3 まとめ

津軽暖流は、2月から5月にかけて水深150m以浅で東側への張り出しが強まった。親潮と思われる寒域は2月から5月にかけて、東経143度30分付近を中心に、東経142度付近から145度、水深200m～300m付近で分散する形で広がった。

水温偏差から見る襟裳沖から岩手沖の水温は、-3度の閉じた不偏差域となっており、2月に尻屋東方海上にあた冷水域が5月には岩手県沖に南下していることから、冷水塊が形成された可能性がある。